ポスター発表

2025年11月1日(土) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-40] COVID-19パンデミック下における滞留人口の時間変化と街頭犯罪との関連

*髙橋 侑太[1]、中谷 友樹[1] (1. 東北大学)

キーワード：COVID-19、車上ねらい、自転車盗、人流データ、時空間ハードル負の二項回帰、地区類型

COVID-19のパンデミックに伴い、滞留人口の減少に関連した犯罪率の低下が確認されてきた。しかし、パンデミックの長期化による滞留人口の中期的な変化が、同時期の犯罪率の変化と関連しているかどうかは、依然として不明である。さらに、パンデミックに関連した滞留人口の変化は、繁華街や住宅街などの地域区分によって異なるが、こうした地域区分と犯罪の時間的変化との関係は十分に解明されていない。本研究では、1時間ごとの滞留人口の変化パターンを基に定義した地区類型を用いて、2019年から2022年までの日本の滞留人口の年次変化と自転車盗難および車上ねらい件数の関連を調べた。その結果、都心部における滞留人口の減少が、自転車盗難および車上ねらいの発生件数の減少に大きく寄与していることが示された。しかし、これらの犯罪の減少トレンドは、滞留人口の変化を調整した後にも依然として残っており、他の要因も減少に影響している可能性が示唆された。

©一般社団法人地理情報システム学会